

【自己評価について】
 A:計画以上に取り組んだ・計画策定時より大きな変化があった。
 B:概ね計画通り取り組んだ・計画策定時より変化があった。
 C:計画通り進捗しなかった・計画策定時より変化がなかった。

行動計画調査票

基本方針	取組方策	重点プロジェクト	取組名	事業	内容	事業期間(年度)	自己評価(ABCから選択)	左記評価の理由	今後の方針	実施主体
A-1 市街地および観光拠点の整備	◎	金ヶ崎周辺地区の整備	① 入道の港敷賀ムゼウムの運営	秘閣旅具検査所、敦賀港駅、大和田回漕部、ロシア義勇艦隊の4棟の外観を再現した入道の港敷賀ムゼウムの管理運営を行うとともに、企画展などを開催し、入道の港敷賀を広くPRする。	R1-R6	B	計画どおりR2年11月3日に供用を開始し、企画展を年間4回開催するなど、計画どおり実施できている。	継続	敦賀市	
			② 民間資本活用によるオーベルジュ等の賑わい創出施設の整備	金ヶ崎地区を中心に、氣比神宮等周辺エリアを含むまちづくりの実行プランとなるデザイン計画に基づき、民間資本を活用したオーベルジュ等の賑わい施設を整備する。	R4-R9	B	公園・駐車場等についてはおおむね計画通りに進捗している一方、民間エリアについては、資材高騰等により計画の見直しを行っている。	継続	敦賀市 民間企業等	
			③ 鉄道遺産の活用	譲渡を受けたトワイライトエクスプレスの部品の活用及びキハ28形気動車の利活用を図る。	R1-R6	B	鉄道遺産の使用に関する要綱を定め、行政だけでなく誰でも使用できる環境を整えた。(利用実績はキハを守る会、園児の遠足など)	継続	敦賀市	
			④ プロジェクションマッピングの活用	金ヶ崎緑地において、来訪者等の滞在時間の延長及び夜間観光の充実を図る。	R2-R6	B	計画通り取組んだ。(R3年度から供用開始。金土日、祝日等の日没後に点灯)	継続	敦賀市	
	◎	氣比神宮周辺の魅力向上	⑤ 集落活性化支援事業	神楽町1丁目を中心に、賑わい創出に必要な店舗の誘致、チャレンジショップやコワーキングスペースの整備、担い手育成、空き店舗活用などを推進する。	R1-R6	B	概ね計画通り実施したが、補助事業の終了と共にR4年度で事業終了し、担い手育成のみ継続した。(担い手育成は別途人財育成事業として引き続き実施予定)地域住民のまちづくりに対する主体性が育成され、積極的な店舗誘致につながった。	終了	敦賀市・ 港都つるが観光協会	
			⑥ 神楽町1丁目多目的広場の活用	氣比神宮周辺の来場者駐車場として利用するとともに、イベント開催など多目的に活用する。	R1-R6	B	計画通りの実施。日々の駐車場やイベントに使用されている。神楽通りの工事に伴い今後の在り方については検討が必要。	継続	敦賀市・ 港都つるが観光協会	
			⑦ 名勝けいの明神の整備	国指定名勝「おくのほそ道の風景地 けいの明神(氣比神宮境内)」の保存・整備を行う。	R1-R6	B	氣比神宮境内整備を所有者が積極的に実施しているため、委員会の開催には至らなかった。今後、境内を文化財としての整備をしていく方針になった際に改めて専門家による委員会を組織する予定。	継続	敦賀市	
			⑧ 氣比神宮前公衆便所改修事業	老朽化が進む氣比神宮前公衆便所の改修(洋式化、多目的トイレ拡張、オストメイト・乳幼児室の設置等)を行い、観光客をはじめとする利用者の満足度向上につなげる。	R2-R6	B	令和2年度に国及び県の補助金を活用し、訪日外国人観光客のまち歩き満足度向上を図るため、氣比神宮前公衆便所の洋式化等を行った。	終了	敦賀市	
	◎	景観形成による空間整備	⑨ 本町通り(国道8号)道路空間の活用	公共空間および荷捌き場の美装化や、植栽やベンチなどの整備を行うとともに、公共空間活用イベントを実施し、賑わいづくりを推進する。	R1-R6	A	近畿地方整備局管内初となる歩行者利便増進道路に指定された。	継続	敦賀市	
			⑩ 景観形成推進事業	景観形成推進地区において、地区ごとに定めた独自のガイドラインに基づき景観形成協議会の構成員が所有する建築物などの外観整備を実施し、地区内の景観形成を推進する。	R1-R6	C	景観形成に係る補助申請が無かった。(他の補助制度に利用が集中したと思われる)	継続	敦賀市	
			⑪ 中心市街地の空きビル再生支援	中心市街地の空きビル再生を図り、景観づくりの寄与と、中心市街地賑わい向上促進のため、改修経費の一部を支援する。	R4-R5	B	中心市街地の空きビルを1件再生することができた。(タイシンビル)	終了	敦賀市	
			⑫ 福井ふるさと広域景観軸の推進	福井原子力センターあつとほうむの屋上を、北陸新幹線敦賀車両基地(仮称)が眺望できる視点場として整備	R4	A	県補助を活用することで事業費の縮減を図ることができた。市民だけでなく、施設来館者にも多く利用していただき、敦賀の魅力を発信できた。	継続	福井県・敦賀市	
	◎	名勝・史跡の整備活用	⑬ 名勝柴田氏庭園の活用	国指定名勝「柴田氏庭園」の建物、庭園について、地域文化活動などのために貸室利用を行うことで、柴田氏庭園の利活用を図る。	R1-R6	B	令和5年度から継続して建物、庭園の公開・活用促進を行い、約1,100人の来場者と6件の貸室を行うことができた。	継続	敦賀市	
			⑭ 史跡武田耕雲斎等墓の整備	国指定史跡「武田耕雲斎等墓」について、水戸烈士記念館(旧隼蔵)、史跡のガイダンス施設を含めた一体的な整備を行う。	R3-R6	B	武田耕雲斎等墓周辺整備を行い、令和6年10月11日に公開することができた。	終了	敦賀市	
			⑮ 史跡金ヶ崎城跡の整備	国指定史跡「金ヶ崎城跡」の保存・整備を行うほか、整備状況を公開するなど、利活用を図る。	R1-R6	C	金ヶ崎城跡について、史跡整備専門家の委員会による文化財に特化した整備でなく、金ヶ崎周辺整備全体の中での活用方法の検討を進めていくこととしたため、史跡金ヶ崎城跡整備検討委員会の開催に至らなかった。	継続	敦賀市	
			⑯ 西福寺建物の修復	国指定重要文化財「西福寺御影堂、庫裏」、市指定文化財「西福寺境内建物」の修復・整備を行う。	R2-R6	B	前年度から引き続き西福寺の保存修理事業のため補助を行った。	継続	宗教法人西福寺	
			⑰ 名勝氣比の松原の魅力向上	松原公園、松原海浜、公衆トイレの環境美化や観光客への観光案内の充実を図る。	R1-R6	B	海浜・松林内の定期清掃により景勝地の美観維持に努めた。また、観光客の利便性・快適性を高めるためシェアサイクルポートの整備(R3)や主要トイレの様式化(R5)等を行った。臨時案内所を設置し観光案内機能の充実を図った。	継続	敦賀市・ 港都つるが観光協会	
			⑱ 山車(やま)会館魅力向上	山車の歴史的・文化的価値を再確認し、その魅力を広くPRし、山車会館の展示内容の更新・充実を図る。	R3-R6	B	コロナ禍等の外的要因による映像制作の一部中止を除き、予定した事業を完了できた。	終了	敦賀市	
			⑲ 日本遺産(鉄道遺産)の活用	旧北陸トンネル群を活用した市民レベルでの観光連携を図る。また、観光コンテンツとしてブラッシュアップし、観光商品を作成するなど利活用を図る。	R5-R6	B	概ね計画通り実施。今後も周辺市町との連携を深める取り組みに努める。	継続	NPO法人THA 港都つるが観光協会	
			◎	敦賀駅周辺エリア整備	① 駅西地区の交流拠点施設の活用	敦賀駅西地区「otta」や知育・啓発施設「ちえなみき」において、官民連携して市民と来訪者の交流や賑わい創出を図る。	R1-R6	A	官民連携により費用を抑えつつ賑わいを生み出すことができた。また、国からの表彰を受けるなど、他市町から参考にされることも多い。	継続
② 新幹線駅前広場の整備	新幹線駅前広場(ロータリー、歩道上屋など)と一体的に緑化空間、駐車場、散策路連絡橋などの整備を推進する。	R1-R6			B	新幹線駅前広場を整備により、新幹線・JR・並行在来線のターミナル駅となる敦賀駅の交通ハブ機能の強化につなげた。	終了	敦賀市		
③ 新幹線駅へのアクセシビリティ向上	新幹線駅前広場と国道8号バイパスを結ぶアクセス道路(県道敦賀駅東線)と周辺地域とのアクセシビリティを確保するため、市道188号線の整備を推進する。	R1-R4			B	アクセス道路等の整備により、インターチェンジや国道バイパス等にアクセスしやすく、広域的な交通結節点としての機能を発揮した。	終了	敦賀市		
④ 駅前立体駐車場の管理運営	施設設備等の利用許可、施設等の利用料金、駐輪場所の管理等の指定管理業務をタイムズ24・タイムズサービス㈱グループに委託(自動車321台、自転車638台、バイク53台、レンタサイクル40台収容)	R1-R6			B	R6稼働実績65%(一般的に40~50%で良)を達成し、整備新幹線駅に付随した都市施設としての機能を発揮した。	終了	敦賀市		

行動計画調査票

基本方針	取組方針	重点プロジェクト	取組名	事業	内容	事業期間(年度)	自己評価(ABCから選択)	左記評価の理由	今後の方針	実施主体	
A-3 来訪者が快適に過ごすための環境整備	玄関口としての駅周辺整備		玄関口としての交流機能強化	⑤ 市内の土産物の販売推進	オルパーク内にあるレンタルスペースを活用し、敦賀市内で生産・販売されている土産販売を推進する。	R1-R6	-	-	-	民間企業等	
				⑥ 市民と連携したイベントなどによる賑わいの創出	オルパークや駅前広場を活用し、市民と連携したイベントを実施して賑わい創出を図る。	R1-R6	-	-	-	民間企業等	
				⑦ 嶺南地域の観光情報の充実・発信	敦賀駅が嶺南地域の観光拠点となるよう、パンフレットコーナーの充実や新幹線開業にあわせ臨時観光案内機能を設置するなど、観光情報の充実を図る。また、新幹線開業に向けた嶺南誘客キャンペーンに県及び嶺南6市町と連携して取り組む。	R1-R6	B	R6年度についてはコンコースを活用した観光案内についても検討を行い、玄関口としての機能充実を図った。	継続	港都つるが観光協会	
				⑧ 知育・啓発施設の管理運営	書籍その他のメディアの提供に関する業務やイベントの企画等の指定管理業務を丸善雄松堂・編集工学研究所共同企業体に委託	R4-R6	A	市民だけではなく、市外からの来訪者にも多く利用され、計画数値を大きく上回っている。	継続	敦賀市	
	A-3 来訪者が快適に過ごすための環境整備	キャッシュレス決済環境の充実化	◎		① キャッシュレス端末導入推進	県外客やインバウンドの高まりにより、よりニーズが増えるキャッシュレス決済の端末導入を支援し、商機の拡大を図る。	R1-R6	B	4年間(R3~6年度)で10件の活用があった。	終了	敦賀市
					② 電子マネー・カード決済やSNS活用セミナーの開催	市内事業者向けに、電子マネー・カード決済や集客に向けたSNSの活用セミナーを実施し、観光客の受入環境整備を推進する。また、地元事業者がモバイルPOS レジやカードリーダーなどの実機を体験できるコーナーを常設し、円滑な機器導入などを支援する(体験コーナーはR2年度まで実施)	R1-R6	B	セミナーを実施することで、キャッシュ決済の導入促進及びSNS運用の効果的な手法について、事業者に身に付けていただけた。	継続	商工会議所
		周遊しやすいまちなか環境の整備			③ バス利用者の利便性向上	市内を運行するバスに交通系ICカードシステムを導入し、バス利用者の利便性を図る。	R4-R6	B	交通系ICカードを導入により、乗車人数の増加比率117%を達成した。 ※費率は、R5.3.16~R6.3.15とR6.3.16~R7.3.15の比較	終了	敦賀市
					④ 案内・誘導サインの整備	JR敦賀駅から氣比神宮周辺、金ヶ崎周辺及び舟溜り地区等を中心市街地の主要な観光スポット間に整備されている誘導サインを適切に管理するとともに、新幹線開業に合わせた案内・誘導サインの整備・更新を行う。	R1-R6	A	人を介さないおもてなしとして敦賀のPRとちょっとしたお楽しみ要素(豆知識)を掲載し、案内機能だけでなく、楽しみながら歩く工夫をすることができた。	継続	敦賀市
					⑤ まちなかのユニバーサルデザイン導入	障がい者や外国人旅行者、高齢者など、だれもが訪れて安心できる環境整備(案内表示、多目的トイレ、駐車スペース等)を推進する。	R1-R6	-	-	-	各施設等管理者
					⑥ 防災ラジオ付き自動販売機の普及	敦賀FM放送網、北陸コカ・コーラボトリング㈱の協力により、防災ラジオ付き自動販売機を市内に設置する。	R1-R6	B	市内5箇所(アクアトム、オルパーク、児童文化センター敦賀警察署、松原公園)に設置できた。	継続	敦賀市
	A-4 市内を巡る二次交通の整備	◎	◎		① ぐるっと敦賀周遊バスの運行	JR敦賀駅を起点として、主要観光スポットや商業施設を巡る「ぐるっと敦賀周遊バス」について、新幹線開業に向けたダイヤ改正を行い、来訪者の利便性向上を図る。	R1-R6	A	新幹線開業にあわせたダイヤ改正及び臨時運行便の実施により、乗車人数の増加比率170%を達成した。 ※費率は、R5.3.16~R6.3.15とR6.3.16~R7.3.15の比較	継続	敦賀市 民間企業
					② シェアサイクル拠点の整備	JR敦賀駅など中心市街地を中心に11箇所整備したシェアサイクル拠点について、新幹線開業に向けた更なる利用促進を図るとともに、ポートの拡充整備を行う。	R1-R6	A	サイクルポートや電動自転車の拡充により、利用回数の増加費率177%を達成した。 ※費率は、R5.3.16~R6.3.15とR6.3.16~R7.3.15の比較	継続	敦賀市
③ コミュニティバスの効率的な運行					停留所名などを入れると最適なダイヤを表示する乗換検索システム、バスの位置情報や運行状況などがリアルタイムで分かるバスロケーションシステムを導入したコミュニティバスを運行し、市民や来訪者が気軽に乗れるバス環境を構築し、利用者増加を図る。	R1-R6	B	乗換検索やバスロケーションシステムを導入により、乗車人数の増加比率117%を達成した。 ※費率は、R5.3.16~R6.3.15とR6.3.16~R7.3.15の比較	終了	敦賀市	
B-1 来訪者への敦賀の魅力調査	◎		プロモーションに向けたニーズ調査	① 敦賀を訪れた来訪者へのアンケートなどによる観光客のニーズの把握	来訪者にアンケート調査を行い、訪れた印象、サービスの満足度など敦賀で何を見たいのか、どんな体験をしたいのか傾向を把握・分析することで、観光客のニーズ把握を推進する。	R1-R6	B	来訪者にアンケート調査を行い観光客のニーズ把握に努めた。	継続	敦賀市	
				② 周遊バス利用者の満足度調査	ぐるっと敦賀周遊バス利用者にアンケート調査および結果分析を行う。バスの利用満足度を測る調査結果をもとに、周遊バスの改善に向けた課題の洗い出しを図る。	R1-R6	A	利用者の声(ニーズ)を聞き取り、おもてなし等の向上や増便などの対策に繋げたことで、乗車人数の増加比率170%(R6/R5)を達成した。	継続	敦賀市	
B-2 敦賀の魅力の再認識	◎		市民の意識醸成	① 「広報つるが」への新幹線関連事業特集記事掲載	市や民間、市民団体などが取り組む新幹線関連事業などの特集記事を定期的に広報つるがに掲載することで、北陸新幹線敦賀開業を市民に広くPRし機運の醸成を図る。	R1-R6	B	予定どおり月1回発行した。随時、新幹線関係特集記事を掲載し、R6年度は北陸新幹線沿線自治体紹介記事を連載した。	継続	敦賀市	
				② 観光ボランティアガイド派遣による講座開催	学校や企業などにボランティアガイドを派遣し、敦賀のまちについての講座を開催することで、おもてなし意識の向上を図る。	R1-R6	A	出前講座を72回、鉄道かみみどろこを17回開催し、市民のおもてなし意識の向上を図った。また、取材依頼に積極的に対応(80件)したり、広報紙による見所紹介(24回)を行うことで敦賀の魅力を発信した。	継続	観光ボランティアガイド	
				③ 児童生徒へのふるさと学習の推進	敦賀の自然に触れる体験や歴史・文化施設の見学などを通じて、ふるさとへの理解と愛着を高め、今後のまちづくりなどへの参画意識の向上を図る。	R1-R6	B	コロナ禍で一部計画通り実施できなかった事業があったものの、概ね計画通り取り組んだ。	継続	教育委員会	
				④ 修学旅行での敦賀PR	市内小・中学生が修学旅行や遠足の訪問先において観光PRを行うため、内容や方法の事前研修を行う。	R1-R6	B	学校からの要請に応じて観光に関する出前講座を開催した。	継続	敦賀市	
				⑤ 新幹線誘客キャッチコピー「つるが、発見！」の活用	キャッチコピーのロゴマークを一般公募することにより、市民一人ひとりによる敦賀の魅力の再認識を促す。また、決定したロゴマークを新幹線開業関係のノベルティグッズに使用することにより、市外の方による敦賀の魅力の発見を図る。	R5-R6	B	一般公募を経てロゴマークを決定した。また、誰でも活用できるようロゴマークの活用に関するマニュアル等も整備した。	継続	敦賀市	
				⑥ 北陸新幹線敦賀開業みんなで応援プロジェクト	新幹線開業への市民の期待や歓迎の想いを映像で収録し、発信する機会と仕組みをつくることで、市内の開業機運醸成を図る。あわせて、市内で展開するカウントダウンポード作製等の市民参加型の取組による盛り上げを市外へ広報展開する。	R5-R6	B	市民参加型の取組により、市内の開業機運の醸成を図った。(市民出演の開業コマース制作・高校生によるカウントダウンポード等の制作)	終了	敦賀市	
				⑦ おもてなし隊の活動を通じて敦賀の観光資源の再認識	おもてなし隊の活動を通じて、敦賀の観光資源を再認識するとともに、高校生が大人と連携し、活動することにより、新しい発見に繋げる。	R5-R6	A	おもてなし活動に大勢の高校生が参加。活動を通じて、敦賀に誇りを感じたとの意見も多数あった。高校生にとって本活動は、敦賀の人の魅力を再認識する機会となっている。	継続	NPO法人THAP	

【自己評価について】 A:計画以上に取り組んだ・計画策定時より大きな変化があった。
 B:概ね計画通り取り組んだ・計画策定時より変化があった。
 C:計画通り進捗しなかった・計画策定時より変化がなかった。

行動計画調査票

基本方針	取組方策	重点プロジェクト	取組名	事業	内容	事業期間(年度)	自己評価(ABCから選択)	左記評価の理由	今後の方針	実施主体	
B-3 来訪者を受け入れる準備	B-3 来訪者を受け入れる準備	◎	敦賀独自の着地型プログラムの開発・販売	① 着地型観光プログラムの開発および敦賀オリジナルの観光商品の販売	市民発案による着地型観光プログラムを開発し、敦賀オリジナルの観光商品として販売することで、誘客推進を図る。	R1-R6	B	毎年度、1~3件の体験メニュー開発支援を行い、旅行者の満足度向上に繋げた。(R6:2件 R5:1件 R4:3件 R3:1件 R2:3件)	継続	敦賀市 港都つるが観光協会	
				② 遊敬塾の運営	鉄道遺産や北前船などの歴史遺産や、海山の食材を活かした「食」をテーマにしたツアーを推進し、敦賀独自の地域資源を活用した祭り参加体験などの企画を達成・販売する。	R4-R6	B	計画通り実施。 民間企業とも連携を図りながらニーズを的確に捉えたツアー造成を行った。	継続	港都つるが観光協会	
				③ 魅力的な観光ルートの造成及び発信	季節や目的・歴史などテーマ・ストーリーを設定した魅力的な観光コースの造成及び発信に取り組む。また、観光タクシーの運行など交通事業者と連携した事業を推進する。	R5-R6	C	事業実施に向けては各種事業者との連携が必要であり、その協議に時間を要した。	継続	港都つるが観光協会・ 商工会議所	
		④ つるが旨いもんマップの作成・配布	食べ歩きマップを作成・配布し、地域資源を活用した物産品や飲食物の認知度拡大を図る。	R1-R6	B	観光地や宿泊施設に設置しているが、非常に引き合いが多く、市内事業者の認知に繋がった。	継続	商工会議所			
		店舗等の受け入れ環境整備支援	⑤ ホテル・旅館の受け入れ環境整備支援	ホテル・旅館の受け入れ環境の整備を支援し、市内宿泊客の満足度向上及びリピーター確保につなげる。	R4-R6	B	HPや窓口等で積極的に補助制度の周知を行い、事業者支援を行った。(補助実績 R4:4件 R5:4件 R6:2件)	継続	敦賀市		
			⑥ 店舗等の魅力向上支援	商業事業者等が実施するリノベーション等を支援し、誘客に向けた事業者の機運醸成を促進するとともに、店舗の魅力向上を図る。	R4-R6	A	令和4年12月から運用開始し、令和6年度までで63件の採択があり、市内の魅力向上に大きく貢献した。	継続	福井県・ 商工会議所		
			⑦ 中小企業のインバウンド対応支援	中小企業等が行うキャッシュレスの導入や、商品メニュー・パンフレット等の多言語化事業を支援する。多言語で飲食店を紹介するアプリの運用を支援する。	R2-R6	B	4年間で10件の活用があった。インバウンドアプリも令和5年度より運用開始	終了	敦賀市		
	B-4 多様なメディアを活用した、敦賀情報の発信	敦賀の認知度向上	◎	プロモーション方策の検討と実施	① プロモーション計画の策定・実施	敦賀市外への情報発信を戦略的に進めていくために、プロモーション計画を策定し、計画に沿ったプロモーションを実施する。	R2-R6	B	R3年度に計画策定。計画の進捗確認を行うとともに適宜内容の見直しを図りながら(各実施主体が)実施してきた。	継続	協働推進組織
					② 新幹線開業に向けたイベントの開催や情報発信の強化	新幹線開業時に合わせたイベントおよびイベントを開催し賑わいの創出や市民意識の醸成を図る。テストステーションキャンペーンなどの大型キャンペーンに向けたプロモーション方策を検討する。	R2-R6	A	開業の1年前・100日前などにイベントを開催し徐々に賑わいの創出や市民意識の醸成を図った。開業日の「つるが街波祭」には市内内外から非常に多くの観光客や市民が来場した。	継続	敦賀市 関係団体
			③ 商談会への参加	北陸新幹線の延伸によりアクセス性の高まる北陸や首都圏での商談会に出展し、販路開拓を行うことで、認知度向上を図る。	R1-R6	A	商談会出展を経て、首都圏等との大手企業との新規取引開始に繋がった。	継続	商工会議所		
			④ 敦賀観光協会による旅行社などへの情報発信	敦賀にリピーターとして来ていただけるよう地域ネタをコーディネートし、旅行会社や代理店に観光情報、企画の提供および訪問営業を行い、認知度向上を図る。	R1-R6	B	計画通り実施。	継続	港都つるが観光協会		
			⑤ 人道の港とゆかりのある国を対象としたプロモーション	人道の港と縁のある、イスラエル、ポーランド、リトアニア、オランダや、ユダヤ系住民の多い北米などからの来訪者をターゲットにPRを行い、誘客を推進する。	R1-R6	B	コロナ禍による中断はあったものの、使節団派遣や関係機関へのPR等を行い、来館者数も増加している。	継続	敦賀市		
			⑥ 観光出向宣伝および物産展などへの参加などによる情報発信	関西・中京地域や、東京をはじめとする北陸新幹線沿線地域(長野、富山、金沢など)での観光出向宣伝や物産展などのイベント参加により、敦賀の観光資源や食、土産物などのPRを実施し、認知度向上を図る。また、嶺南地域の市町と連携して新幹線開業に向けたPRを推進する。	R1-R6	A	各地で物産展を行うことで「敦賀市」の認知拡大に寄与した。また、イオンリテールと連携を深め、事業者の販路拡大に繋がった。	継続	港都つるが観光協会		
			⑦ 新聞や雑誌、SNSなど多様な媒体を活用した観光情報などの発信	新聞や雑誌、テレビ、ラジオ、高速バス背面などへの広告掲載を通じ敦賀市を広くPRし、観光客の増加を図る。また、ホームページやSNSの即時性の高い媒体の活用により旬の観光情報の発信を行う。	R1-R6	A	国内外に向け、雑誌やWEB媒体、SNSをターゲットに合わせて掲載内容等を工夫しながら情報発信を行った。また、開業に伴う注目度向上を受け、多数の媒体に取り上げられた。	継続	港都つるが観光協会		
⑧ SNSを活用したキャンペーン活動(#つるがキャンペーン)			SNSを活用したキャンペーンを実施し、敦賀市の認知度向上による観光誘客の促進および市内経済の活性化を図る。	R1-R6	B	毎年度キャンペーンを実施し市の認知度向上に繋がった。(フォロー数 Instagram:3,398人 x:15,562人)またキャンペーン賞品は市特産品等とすることで市内経済の活性化を図ることができた。	継続	敦賀市			
⑨ つるがの食・味情報発信			情報発信力のある料理人等に敦賀へ来ていただき、敦賀の名産品を使った料理の様子、市内飲食店の様子をSNSで発信してもらい敦賀の食に関する魅力を広くPRする。	R3-R6	B	情報発信力のある料理家に敦賀へ来てもらい、敦賀の名産品を使った料理の様子や市内観光の様子などを撮影し、撮影した動画等をSNSにて発信してもらうことで敦賀の食に関する魅力を広くPRした。	終了	敦賀市			
⑩ 敦賀ネットモール利活用の推進			市内商業店舗の情報発信の強化に取り組むため、市内高校生などの協力のもと、手軽にアクセスできる情報発信サイトを運営する。	R2-R6	B	店舗や商品のPRにあたってモニターとして市内学生の参加を促すとともに、掲載店舗の拡充も進めた。	継続	敦賀市			
⑪ 敦賀開催イベントへのPRブース出展			市内で開催する、県外参加者が多数見込まれるイベントやスポーツ大会等に、キッチンカーなどによる飲食を含めた敦賀開催PRブースを出展し、県外からの大会参加者等に本市の認知度向上を図る。	R4-R6	B	ファッション・スポーツ大会等の観光以外の目的で来訪された様々な年齢層の参加者に市のPRができた。出展件数はR4:4件 R5:5件 R6:4件	終了	敦賀市			
⑫ 首都圏等対象プロモーション事業の実施			首都圏イベントへの出展による民間交流拡大や、首都圏の新聞社等への広告、メディア取材誘致活動等により、本市の認知度向上を図る。また、新幹線開業前後における関西・中京からの誘客を促進するため、出向宣伝などのPRを実施する。	R5-R6	A	北陸新幹線敦賀開業を契機に関東圏へのメディアでの情報発信に加え、「人」をきっかけとした新たな双方向のプロモーション方法の基礎を作ることができた。	継続	敦賀市			
⑬ 市内イベント・グルメ等の情報集約サイト「クチコミつるが」による情報発信			市内で開催されている各イベント情報や、SNSで投稿されたグルメ・イベント等に関する「クチコミ情報」を閲覧することができる情報発信サイトを運営する。	R5-R6	B	様々な団体が参画し、市内イベントについて幅広く周知できた。	継続	商工会議所			
⑭ 市勢要覧の作成			市の取組などを紹介する冊子を作成し、各種シティセールスや視察等来客者への広報ツールとして活用しPRを推進する。また、観光パンフレットと連携し記載内容の役割分担を行う。	R5-R6	B	2023年度版、2024年度版を作成し、新幹線開業について掲載した。	継続	敦賀市			
B-5 デスティネーションキャンペーン、大阪・関西万博を契機としたプロモーションの推進	デスティネーションキャンペーン、大阪・関西万博を契機としたプロモーションの推進	① 北陸デスティネーションキャンペーンに向けた取組の推進	令和6年10月から始まる北陸デスティネーションキャンペーンに向け、敦賀の魅力的な観光素材の集約及び発信を行う。あわせて、令和5年11月に開催される全国宣伝販売促進会議のレセプション・エクスカージョンにおいて、全国の旅行会社社員に敦賀の観光をPRし、北陸デスティネーションキャンペーンでの誘客につなげる。	R5-R6	A	R5年度にプレDCにてPRを行い、R6年度の本DCでは多くの誘客ができた。DC報告書では、敦賀赤レンガ倉庫の入館者数実績がDC期間中の前年比123%、期間外146%であった。	終了	敦賀市			
		② 大阪・関西万博に向けた取組の推進	大阪・関西万博に向けた国等の動向に注視し、観光素材の更なる磨き上げ等を進めるとともに、関西からの誘客やインバウンドを対象とした出向宣伝・商談会等のプロモーションを行う。	R5-R6	B	出向宣伝にて体験型コンテンツの場を多く設けることで、国内外に敦賀を訴求できるコンテンツ(昆布かき体験や双螺のギョウブ)に成長させた。	継続	敦賀市			

【自己評価について】 A.計画以上にやりこんだ・計画策定時より大きな変化があった。
 B.概ね計画通り取り組んだ・計画策定時より変化があった。
 C.計画通り進捗しなかった・計画策定時より変化がなかった。

行動計画調査票

基本方針	取組方策	重点プロジェクト	取組名	事業	内容	事業期間(年度)	自己評価(ABCから選択)	左記評価の理由	今後の方針	実施主体
C 高速交通基盤を活かした 拠点性の強化	C-1 広域連携の推進	◎	嶺南市町との広域連携の推進	① インバウンド誘客の推進	美浜町や若狭町と連携し、台湾でのインバウンド商談会への共同出展などを行い誘客を推進する。	R1-R6	B	インバウンド誘客を促すため、台湾・タイでの商談会に参加した。	継続	嶺南6市町
				② 観光パンフレットの多言語化	外国人観光客が市内の観光地を周遊し見易いよう、多言語総合パンフレットを作成する(英語、韓国語、繁体字、簡体字等)	R5-R6	B	増加が見込まれるインバウンド需要に対応するため、既存の観光ガイドマップの多言語化(韓国語、中国語(繁体字、簡体字)、タイ語、ヘブライ語)を行った。	継続	敦賀市
				③ 嶺南観光アプリの運営	嶺南地域への来訪者向けに、アプリ(LINE)を通じて、嶺南地域の商業施設で利用できるクーポンを配布し、地域の商業活性化を図る。	R1-R6	B	アプリを通じて嶺南地域の商業施設で利用できるクーポンを配布し地域の商業活性化を図った。(ふく割り・わくわく乗り換えキャンペーン)	継続	福井県(嶺南振興局)
				④ 嶺南地域公共交通計画の策定	嶺南地域の公共交通の活性化、新幹線開業効果の嶺南全域へ波及を目的とした、福井県と嶺南6市町で協議会を設置し、計画策定を推進する。	R1-R6	B	持続可能な交通ネットワーク構築や新幹線効果の嶺南地域全体への波及に向けた次期計画を策定した。	継続	福井県(嶺南振興局) 嶺南6市町等
				⑤ 広域観光バスの運行	敦賀駅発着の氣比神宮、金ヶ崎など市内観光地や三方五湖、年輪博物館などを巡る広域観光バスを運行し、広域的な周遊観光を推進する。	R2-R6	C	敦賀・美浜・若狭広域観光推進会議にて広域バスの運行は実施しなかった。(福井県にてゴイチバス実施)	終了	敦賀・美浜・若狭広域観光推進会議
		◎	テーマ別広域連携の推進	⑥ 鉄道遺産活用による観光振興推進	明治期の鉄道遺産などの近代化遺産が数多く残る長浜市、敦賀市、南越前町の3市町で組織する長浜市・敦賀市・南越前町観光連携協議会において、日本遺産に認定された「世界へつながる鉄路のセキ」の構成文化財である旧北陸線トンネル群などの鉄道遺産を活用した広域観光を推進する。	R1-R6	B	長浜市・南越前町と連携しながら、日本遺産を活用して、観光客誘客に向けた様々な事業を行った。	継続	長浜市・敦賀市・南越前町観光連携協議会
				⑦ 北前船日本遺産の観光振興推進	日本遺産に認定された「北前船寄港地・船主集落」の構成文化財などを活用した観光振興に推進するとともに、ストーリーにゆかりの深い市町と連携し、広域的な観光誘客策を推進する。	R1-R6	B	北前船寄港地の北陸ブロックの市町と連携し、観光客誘客の事業を行った。また、寄港地フォーラムも開催した。	継続	敦賀市
				⑧ 日本海縦断観光ルート・プロジェクト推進協議会のもと「人材育成・観光交通・情報」の3つのプラットフォームを構築し、WEBサイトの運営や日本海地域の周知に向けたイベントを実施する。また、各地域を繋ぐ旅行商品の造成を行う。	R1-R6	B	日本海縦断自治体と連携し、インバウンド向けプロモーションや国内誘客イベント等を実施した。	終了	日本海縦断観光ルート推進協議会	
				⑨ 杉原千太郎ルートの推進	在カウナス(リトアニア)日本領事館の杉原千太郎領事代理に縁ある場所や、その周辺地域への観光客誘客を図るために効果的な周遊ルートの受入環境整備およびプロモーション活動などを実施する。	R1-R6	B	コロナ禍及び近年の世界情勢の影響により現地でのプロモーションは実施できていないが、FAMの実施等の受入環境整備は行うことができた。	継続	杉原千太郎ルート推進協議会
				⑩ 松尾芭蕉・「奥の細道」による観光振興推進	「松尾芭蕉推しの地・敦賀」を全国に発信するとともに、「奥の細道」ゆかりの自治体と連携し、広域的な観光誘客策を推進する。	R1-R6	B	大垣市で行われる「芭蕉祭」等に市内事業者が出展し、敦賀市の特産品の販売及びPRを行った。R3年には松尾芭蕉が歌に詠んだ氣比神宮にのぼる月が「日本百名月」に認定され、松尾芭蕉ゆかりの地として全国に魅力を発信した。	継続	敦賀市
				⑪ JR西日本が運用する観光型MaaS「tabiwa」と連携し、観光施設等の電子チケットやお得なクーポンの充実を図り、敦賀を訪れる観光客の利便性を高める。	R5-R6	B	市内観光施設やシェアサイクルとの連携を促し、観光客の利便性向上を図った。	継続	敦賀市	
	C-2 教育旅行・撮影などの誘致	◎	教育旅行・学生合宿の誘致	① 教育旅行・学生合宿の誘致	福井県外に所在する高等学校、高等専門学校、短期大学、大学の生徒又は学生で構成され、敦賀市内で宿泊合宿を行う部活動、サークル活動、ゼミ活動などに対し、宿泊経費を一部補助する。	R1-R6	B	敦賀市合宿誘致事業費補助金により全国から学生合宿を誘致した。(R4:15校、R5:12校)	継続	敦賀市・港都つるが観光協会
				② 修学旅行などでの民泊の促進	新幹線開業により、関東エリアからの修学旅行の増加による民泊需要の増加が見込まれるため、美浜町、若狭町との連携の下、受入拡充を図る。	R1-R6	B	民間企業と連携し、民泊の受入を行った。	継続	敦賀市
				③ フィルムコミッションの推進	ドラマ、CM、映画などの撮影の問い合わせがあった際に、ロケ地などの紹介、関係機関との調整、エキストラの確保といった撮影のサポートを通じて、受け入れを推進する。	R1-R6	B	増加するロケ依頼に対し、関係機関と協力し適切に対応することができた。(R3:7件、R4:7件、R5:14件、R6:13件)	継続	敦賀市
		◎	新商品・敦賀ブランドの推進	① 「敦賀ブランド」開発・確立調査研究事業	「敦賀ブランド開発検討会」を設置し、敦賀観光協会や農業協同組合、漁業協同組合と連携し、「敦賀ふく」「敦賀真鯛」をはじめとした食文化や「鉄道と港のまち」をテーマとしたブランドづくりに向け、地域ぐるみで研究開発を行うことで、ブランド確立を図る。	R1-R6	B	ブランドマークの決定及び商標登録の取得まで完了。	継続	商工会議所
				② 特産品・土産品の開発及び販売店舗の拡充	敦賀をPRする新商品やパッケージ開発、北陸新幹線敦賀開業のメッセージ発信を目的とする商品開発を推進する。また、既存を含めた商品の市内外の販路拡大を推進する。	R1-R5	B	5年間で10件の利用があった。	終了	敦賀市
	③ 商品開発・販路開拓塾			敦賀の名物づくりに向けてのセミナー、相談会(商品開発・販路開拓塾)を開催し、名物づくりを行う。	R1-R6	B	地元企業の新たな商品開発及び市内外への販路拡大に繋がった。	継続	商工会議所	
④ 敦賀ドレッシングの販売展開	伝統野菜「黒河マナ」と敦賀の魚から作った魚醤を使用したドレッシングの改良および販路拡大を行う。			R1-R6	B	市内事業者にて敦賀ドレッシングを使用したメニュー開発が実現した。	継続	商工会議所		

【自己評価について】 A:計画以上に取り組んだ・計画策定時より大きな変化があった。
 B:概ね計画通り取り組んだ・計画策定時より変化があった。
 C:計画通り進捗しなかった・計画策定時より変化がなかった。

行動計画調査票

基本方針	取組方策	重点プロジェクト	取組名	事業	内容	事業期間(年度)	自己評価(ABCから選択)	左記評価の理由	今後の方針	実施主体
D 敦賀の特色を活かした 商業・産業活性化	D-1 敦賀らしい特産品・土産品の 研究・開発・販路拡大		生産基盤の強化と販路拡大	⑤ 東浦みかんのブランド力強化と生産力拡大	苗木の新植や改植、ブランド化に必要なPR用品の作成を行い、収量拡大、品質向上、販売額の増加を図り、農業経営の向上を図る。	R1-R6	B	苗木の新植、圃地造成を進め、平地の新圃地開設につながった。一方で、猛暑や病害虫被害による着果不良が発生し収量が激減するなど、安定性が課題となっている。	継続	敦賀市 農産物振興課
				⑥ 「敦賀ふぐ」・「敦賀真鯛」の養殖を奨励	「敦賀ふぐ」の種苗購入並びにPR活動に係る経費を助成し、漁業経営の安定化と養殖魚の販路拡大を図る。	R1-R6	B	「敦賀ふぐ」の種苗購入並びにPR活動に係る経費を助成し、漁業経営の安定化と養殖魚の販路拡大を図った。	継続	敦賀市 敦賀市漁業協同組合
				⑦ 「敦賀真鯛」・「敦賀ふぐ」のブランド推進事業	「敦賀真鯛」・「敦賀ふぐ」のブランド推進のためPR活動及び流通経費に対する補助を行い、販路及び消費の拡大を図る。	R2-R6	A	敦賀真鯛・敦賀ふぐのブランド化を進め、県内外へPR発信を行った。また、活魚車・活魚水槽の導入にもつながり、今後さらなる販路拡大・販売単価増加も期待できる。	継続	敦賀市 杉澤アカカンパ生産組合
				⑧ 杉澤アカカンパのブランド力強化と生産力拡大	栽培支援、PR用広告などの作成、農作業ボランティアの実施など、伝統野菜「杉澤アカカンパ」の維持発展や知名度向上を推進する。	R1-R6	B	栽培支援や農作業ボランティアの実施等により、知名度の向上につながるとともに、新商品の開発なども進んだ。一方で、後継者不足により生産力の拡大には課題が残る。	継続	敦賀市 杉澤アカカンパ生産組合
				⑨ 食・体験・宿泊強化による受入環境整備事業	令和3年度より開発されてきた新ご当地グルメ「つるがUMAMIグルメ」と「体験観光素材」の内容について、おもてなしバスポートや、じゃらんnetに掲載する特集ページを作成し、情報発信による誘客ならびに、市内店舗を周遊して頂くなど、誘客・消費拡大を行う。	R4-R6	A	おもてなしバスポートについては引き合いが多く、敦賀に訪れた観光客への訴求ができています。	継続	商工会議所 港都つるが観光協会
	D-2 空き店舗解消の推進	◎	まちなか創業の推進	① 中心市街地での創業支援	商店街にある空き店舗の調査を実施するとともに、市内不動産事業者と連携し、空き店舗の情報を提供するサイトを運用する。また、まちなか創業等促進支援事業費補助金を充実に、中心市街地でのワーキングスペースやシェアオフィスも踏まえた創業などを促す。	R1-R6	B	中心市街地の店舗情報を収集し、ホームページにて発信するとともに店舗見学会を実施した。	継続	敦賀市
	D-3 拠点性を活用した産業基盤の構築	◎	拠点性を活用した産業基盤の構築	① 第2産業団地への企業誘致	企業立地促進補助金による、企業誘致を行い、新たな企業の進出や事業拡大に伴う雇用者、定住者の増加を推進する。	R1-R5	A	R3年度に全区画売買契約済みとなった。	継続	敦賀市
				② サテライトオフィスなどIT企業の誘致	駅周辺など利便性が向上する地域に対し、IT企業の進出を促し雇用者、定住者の増加を推進する。	R1-R6	B	6年間で4件のサテライトオフィス整備を支援した。	継続	敦賀市
				③ サテライトオフィス整備促進	新型コロナウイルス感染症の影響による新たな働き方を図る企業に対して、サテライトオフィスの誘致を促進させるため、開設に必要な改修費用等の補助を実施	R3-R6	B	6年間で4件のサテライトオフィス整備を支援した。	継続	敦賀市
				④ 産業間連携推進等事業費	商業化が見込まれる企業の技術開発、研究開発などに補助を行うことで、敦賀市における産業振興を図るとともに、将来的な産業間連携の基盤の形成を促進する。	R1-R6	B	企業の研究開発等に対して支援を実施し、商用化に至る産業の創出につながった。	終了	敦賀市
⑤ 嶺南Eコースト計画推進事業費				エネルギーの多元化を目的とし、水素社会形成に関する計画を策定。嶺南Eコースト計画及び共創会議の将来像に、当該計画を反映し、全体的な取組として推進する。	R1-R6	B	民間企業と連携しながら、エネルギーを活用した多様な取組を実施した。	継続	敦賀市	
E-1 敦賀市民のおもてなし意識 向上	◎	おもてなし力の強化	① 観光事業者などへのおもてなし力向上に向けたセミナーや研修会の開催	市内事業者のおもてなし力向上のためのセミナーを開催し、「おもてなし力」「サービス力」の向上を図る。	R1-R6	A	敦賀市民のおもてなし力向上に繋がった。	継続	商工会議所	
			② 敦賀おもてなし事業の推進	来訪者に「もう一度訪れたいまち」と思ってもらうために、市民活動団体、商店街、敦賀商工会議所などが連携し、おもてなし隊の人材育成の推進や新たなおもてなし事業を構築する。また、新幹線開業に向け、おもてなし体制の充実を図るため、開業関連イベントの会場に「おもてなし受付センター」を開設し、市民から「おもてなし隊」への参加者を募集する。	R1-R6	A	開業日～ゴールデンウィークの土日祝日計20日間に集中活動ができた。またロコミで100名を超える高校生の参加があり、敦賀のファン拡大に大きく寄与した。	継続	市民団体	
			③ 観光ボランティアガイドの活動の充実	事前にガイドを希望したお客様に対し、敦賀市内を案内するボランティアガイドを行い、敦賀の認知度を向上を図る。また、歴史や文化など多様な視点から敦賀の魅力の説明ができるよう勉強会・研修会を開催し、ガイドスキルを高めるとともに、広報紙などを通じて会員の拡大を図る。	R1-R6	A	①ガイド関連学習環境の充実 ②街歩き行「くまの企画」運営 ③市民・店舗向け観光冊子の作成・配布&出前講座に活用	継続	観光ボランティアガイド	
			④ 敦賀の観光に関する講座の開催	語学講座に「敦賀の観光」をテーマにした回を設け、市民への啓発を図る。また、「ふるさとの魅力発見ー日本遺産（鉄道遺産ストーリー）の魅力ー」をテーマとした生涯学習講座、現地学習を開催し、日本遺産に認定された鉄道遺産の魅力について知ってもらうことにより、おもてなし力の向上を図る。	R1-R5	B	令和5年度には、日本遺産現地学習事業を実施し、市内外から44名が参加した。	終了	敦賀市	
			⑤ 観光つるが検定の実施	市民に敦賀市内の観光に関する知識の習得を促し、観光ガイドの育成につながるため、初級・中級・上級の検定を実施し、敦賀博士の育成を図る。	R6	C	経費の兼ね合いから実施に至らなかった。今後の実施に向け引き続き検討する。	継続	港都つるが観光協会	
			⑥ 北陸新幹線敦賀開業歓迎のおもてなし運動	来訪者をおもてなしの気持ちで歓迎するため、公共施設と連携し、花のプランターを設置する。また、ボランティアによる、おもてなし運動を展開する。	R4-R6	B	令和5年度に市内10カ所に花のプランターを設置し、令和6年度まで継続して花苗や土を配給した。	終了	敦賀市 市民活動推進委員会 「おもてなし隊」運営隊支援	
			⑦ おもてなし隊の活動の推進	北陸新幹線敦賀開業に向けて、来訪者をきれいな町並みでお迎えできるよう、市民や企業と協働し、定期的な清掃活動に取り組み。また、氣比神宮前での写真撮影のお手伝いや地元目録で飲食店や観光スポットをお勧めするなど、観光客とのコミュニケーションを通じて、敦賀に親しみを持ってもらい、リピーターの増加を図る。	R1-R6	B	「第2日曜日午前」「第4日曜日午前」「第3木曜日夜」のおもてなし継続活動を計画通り取り組んだ。	継続	NPO法人THAP	

【自己評価について】 A.計画以上に取り組んだ・計画策定時より大きな変化があった。
 B.概ね計画通り取り組んだ・計画策定時より変化があった。
 C.計画通り進捗しなかった・計画策定時より変化がなかった。

行動計画調査票

基本方針	取組方策	重点プロジェクト	取組名	事業	内容	事業期間(年度)	自己評価(ABCから選択)	左記評価の理由	今後の方針	実施主体
E ホスピタリティあふれる 敦賀人の育成	E-2 インバウンドへの対応	◎	外国人観光客へのおもてなしの向上	① インバウンド対策セミナーの開催	外国人旅行者のおもてなしに関するセミナーを実施し、おもてなし力向上を図る。	R1-R6	C	コロナ禍によりインバウンド対策需要が少なく、開催が困難であった。	継続	商工会議所
				② 指差し会話シートの作成・配布	市内事業者向けに、インバウンド向けの指差し会話シートを作成・配布し、インバウンド受付環境整備を推進する。	R1-R6	B	クルーズ船寄港時等に市内事業者に配布し、活用していただけた。	継続	商工会議所
				③ 観光案内英会話への対応	インバウンドの受け入れや外国人のおもてなし時に役立つ簡単な英会話ハンドブックを作成する。	R6	C	必要な情報の精査に時間を要したため、ハンドブックは作成途中である。	継続	青野つばし観光協会・観光所コンプライアンスガイド編
				④ クルーズ客船寄港時の積極的誘致	クルーズ客船の誘致活動及び寄港時の歓迎イベントを行い、敦賀港の賑わいを創出する。	R5-R6	B	福井県とともにクルーズ船の誘致活動を行った。寄港時には商店街や地元高校生らと協力して歓迎イベントを行った。(入港数R6:2 R5:1 R7は9回予定)	継続	福井県・敦賀市
				⑤ おもてなし隊の活動時における英語案内の充実	氣比神宮前で活動時に日本語の案内板に加え、英語表記の案内板を作成する。特に海外クルーズ船の寄港時に英語での案内を推進する。	R6	B	THAP単体では英語案内についての取り組みはなかったが、所属する官民連携組織(推進会議)のおもてなし部会にて取り組んだ。	継続	NPO法人THAP
	E-3 民間と行政の連携体制強化	◎	官民連携の体制づくり	① 敦賀市観光推進ネットワークの推進	官民協働による観光振興を担う敦賀市観光推進ネットワークを開催し、情報の共有化を図ることで各団体の相互連携を促し、本市の観光振興への相乗効果を図る。	R1-R6	B	当該団体の会議等実績はなかったが、構成員は推進会議へ参画しているため、その役割を推進会議が担った。	終了	敦賀市
				② 観光誘客対策	観光の産業化に向けて関係他団体との連携を推進する。	R1-R6	B	他団体と連携することで、体験型ワークショップの開発などを行い、観光客誘客に繋げることができた。	終了	商工会議所
				③ 官民連携組織の推進	新幹線開業に向けた取組推進の場である官民連携組織において、情報共有や行動計画の見直し、具体的なプロモーションや開業イベントの検討を行う。また、開業後も観光振興を担う各団体の相互連携を促し、本市の観光振興への相乗効果を図る。	R1-R6	A	推進会議において行動計画の進捗確認や計画の見直し、情報の共有を行い、官民が一元となった取り組みを推進し、観光誘客・消費拡大などに繋がった。また、開業日にはつるが街波祭が開催され約43,000人が集まった。	継続	敦賀市 商工会議所 港都つるが観光協会
				④ まちづくりプレーヤー発掘・育成	市民発案の企画やそのプレーヤーを発掘、育成するため、敦賀の魅力発信する取り組みを創造する場づくり(ワークショップ、発表会)を既存と新規のまちづくりプレーヤーのマッチングを図りながら実施する。	R3-R6	B	3期で65人のまちづくり人材を発掘・育成し、さらに、事務局運営やファシリテーションと言った、踏み込んだスキルの取得に取り組んだ。	継続	敦賀市
	E-4 移住者の受け入れ・支援	◎	移住・定住の促進に向けた情報提供	① 空き家・空き地情報バンクの促進	市内の空き家・空き地情報の提供や物件所有者と定住希望者などのマッチングを図る敦賀市空き家・空き地情報バンクについて、登録物件に対する支援を行うことで登録件数および成約件数の増加を図る。	R1-R6	B	空き家・空き地情報バンクの運営により、153件の新規バンク登録があり、101件の成約があった。	継続	敦賀市
				② 移住定住促進HPの作成・運営	敦賀の魅力発信する専用ホームページを運営することで、移住定住を促進する。	R1-R6	B	HPの掲載情報を充実させるため、改修を実施し、アクセス数の増加に繋がった。	継続	敦賀市
		◎	移住・定住者への支援	③ 3世代ファミリー定住支援事業	多世帯が同居・近居するための住宅取得(購入・新築)や同居するためのリフォームを支援することにより、子育てや介護など、世帯間で助け合いながら安心して暮らすことのできる環境を創出し、敦賀市への定住を促進する。	R1-R4	B	補助事業の実施により、令和4年度までに9件の補助を行い、30名の移住者に繋がった。	終了	敦賀市
				④ 新婚・子育て世帯と移住者への住まい支援事業	子育て世帯と移住者に対して、敦賀市空き家・空き地情報バンクに登録された空き家の購入やリフォームを支援することにより、空き家の有効活用を図り、敦賀市への定住促進および子育て世帯の住環境向上を目指す。	R1-R6	B	補助事業の実施により39件の補助を行い、13名の移住者に繋がった。	継続	敦賀市
				⑤ 移住支援金制度の実施	移住定住促進HPによる情報発信にあわせて、移住の後押しとなる支援金制度を実施し、敦賀市への移住を推進する。	R1-R6	B	制度の見直しや周知によって、移住者による制度利用件数が増加した。	継続	敦賀市
				⑥ 移住者・新婚世帯家賃補助	良質な住環境を提供するとともに、本市への移住・定住を促進するため、新たに市営特定公共賃貸住宅(特公賃)に入居する移住者世帯または新婚世帯に対し、一定期間家賃の一部を補助を行い、敦賀市への定住を促進する。	R3-R6	C	補助制度を設け広報紙やHP等で周知しているが、補助実績がなかった。(問合せは随時あり)	継続	敦賀市
	E-5 誰もが楽しめる魅力的なイベントやまっつりの開催	◎	まちなかの賑わいの創出	① 中心市街地における地域活性化イベントなどの開催	敦賀駅周辺での「つるが鉄道フェスティバル」の開催をはじめ、「敦賀港イルミネーション『ミライエ』」などの金ヶ崎周辺地区の活性化イベントや、「晴れの日」、「氣比神宮の社フェスタ」、「つるが旨いもんなんでもマルシェ」などの商店街の賑わい創出を目的としたイベントなどを開催し、地域活性化を図る。参加店の店主やスタッフが講師となり、そのお店ならではの専門的な知識やコツ、裏技などを教えてくれるワークショップ型のゼミ「まちゼミ」を開催する。また、敦賀市公認キャラクター「ツツガ君」や「よっしー」などを用いてイベントの賑わいを創出する。	R1-R6	B	イベントを開催することで、市街地の活性化につながった。	継続	敦賀市 「つるが 鉄道と海」まちづくり実行委員会
				② 中心市街地賑わい街づくり支援事業	市民団体や商店街等が中心市街地において実施する賑わいづくりのための事業を支援する。	R1-R6	B	新幹線開業が近づくとつれ、前年以上の多くの補助実績があった。	継続	敦賀市・港都つるが観光協会
				③ 友好市町と連携した賑わい創出イベントの開催	敦賀市の歴史遺産をPRするとともに友好市町と連携した賑わい創出イベント開催を推進する。	R1-R6	B	北陸新幹線敦賀開業1年前、開業年、開業1周年記念イベントの一部として、姉妹・友好都市や北陸新幹線沿線自治体等と連携した「つるが観光物産」イベントを開催した。	継続	敦賀市・港都つるが観光協会 民間団体
				④ 国際交流イベントの開催	人道の港と緑のあるイスラエル、オランダ、ポーランド、リトアニアの4カ国との交流を目的としたイベント開催を推進する。	R1-R6	B	「人道の港 敦賀ムゼウム」のリニューアルオープンにあわせ「人道の港国際文化交流ウィーク」を開催した。	終了	敦賀国際文化交流フェスティバル実行委員会
				⑤ 中心市街地における子どもイベントの開催	青少年健全育成を目的とした「親子のフェスティバル」を金ヶ崎周辺地区で開催し、他のイベントと連携するなど、地域全体の活性化を図る。	R5-R6	B	きらめきみなと館とその周辺で開催した親子のフェスティバルは、令和5~6年度の2か年で約17,200名の参加があった。	継続	青少年健全育成推進実行委員会 NPO法人THAP
⑥ 安心して来訪できる感染症対策の実施				大きな健康被害と社会的影響をもたらす感染症から市民、来訪者の生命及び健康を守るため、敦賀市新型インフルエンザ等対策行動計画を必要に応じ更新するなど、安心・安全な環境の維持に努める。	R1-R6	B	敦賀市新型インフルエンザ等対策行動計画の改定を令和7年度に予定しており、改定に向けた準備を行った。	継続	敦賀市	